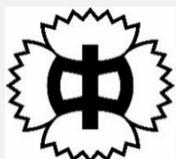


大宮小&済美小&大宮中 夢のタスキを9年間つなぎます！



# なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和3年2月26日 第18号(19-41)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

## 2/8（月）朝礼校長講話 『夢ある者に成功あり』の話

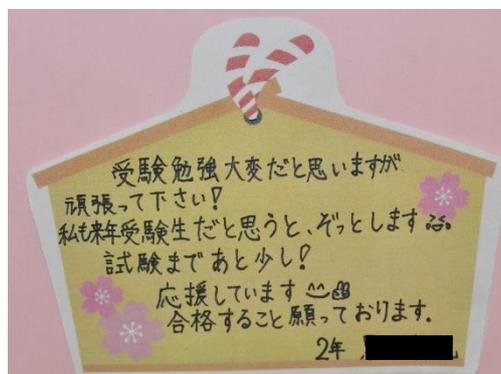
～夢の種は誰の前にも転がっている～

私は毎年、3年生の受験のために面接練習をします。その中で必ず聞く質問は、「将来の夢はありますか？」です。「まだ決まっていません、高校生活の中で自分にあった目標や仕事を見つけたいです」と答える人が少なからずいます。そんな中、夢を生き生きと語る生徒がいます。「その夢を考えるようになったエピソードはありますか？」と聞くと、このエピソード、どの生徒の答えもワクワクします。さて、人が夢をもつきっかけって何だろう？

今朝は数年前にノーベル賞を受賞した北里大学の<sup>大村</sup>智先生の、夢のきっかけの話です。彼は研究者時代に常にポリ袋を持ち歩き、土を採取して微生物がつくる物質を調べる作業を繰り返します。遂にある土から採取した微生物から、『イベルメクチン』という薬をつくります。この薬が大当たり。アフリカで蔓延した『オルコンセルカ病』という、恐ろしい病気の特効薬で、3億人以上を失明から救いました。この大村先生の社会人スタートは、地元の大学卒業後に県の教員を目指しましたが採用がなく、東京の定時制高校の理科の教員でした。ある晩、昼間工場で働いて油がしみついたままの指で、真剣に試験を受けている働きながら学ぶ高校生の姿を見て、ハッとします。（自分ももっと勉強したい。学び直そう！）。それから大学院で猛勉強します。（人の役に立つ物質を見つける）という強い思いで研究を続けたそうです。

「自分はこれをしたい」と、将来の生き方を決定するきっかけは、それに気付くか、気付かないかが分かれ道です。江戸時代は、武士、商人、百姓の子供は親と同じ職業につく時代でした。そんな中で、吉田松陰（皆さんも聞いたことがあると思います）は、教え子たちに『夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし、故に夢なき者に成功なし』と、夢をもつことの大切さを弟子に教えていたと言います。その塾は、歴史を動かす人を大勢輩出しましたね。大村智先生は、油がしみついた生徒の指先を見たことを、自分の生き方の方向性を変えるきっかけにしました。そのきっかけに、自分で気付き、自分で決めて行動したのです。

コロナ禍の今、大宮中生の中には、自分の夢や目標を見つけるきっかけをつかんだ人はいいますか？現在、部活動は停止状態です。音楽発表会もできなくなり、校内に歌声は聞こえません。そんな中、三年生の皆さんは受験に向けて、ラストスパートです。体調管理して全集中で！一・二年生の皆さん、放課後や休日の自分の時間が、これまでになくたくさんあると思います。今年度ももうすぐ終わります。ここから『夢ある者に理想あり、理想ある者に計画あり、計画ある者に実行あり、実行ある者に成功あり』という毎日を過ごしてみませんか？先生方は皆さんを応援しています。😊



## 授業がらっと訪問⑮

2月10日(水)③ 国語 2B 丸山主任教諭

PC室の授業です。教材は教科書の『走れメロス』です。小説の中に出てくる名言を発表しようという内容です。令和3年度から、文科省のGIGAスクール構想に沿って、生徒一人一台TP(タブレットパソコン)が貸与されます。TPは家庭に持ち帰ることが前提です。これからの授業と家庭学習はTPを効果的に活用する大きな流れがあります。本時はTPアプリの『ロイロノート』を活用した授業です。ロイロノートの機能として、自分の考えをノートに記入して、お互いに考えの共有が簡単にできることがあります。生徒はキーボード、手書きどちらも入力できます。全員が入力を終えて提出すると、画面上に全員のノートが提出順にサッと表示されます。「いや、まだ日は沈まぬ」「メロスは単純な男であった」「正直な男のままで死なせてください」「ありがとう友よ」「沈んでゆく太陽の十倍速く走った」等々、一人として重複することなく感じ取った名言が違うのが素晴らしい。全員が記入後に一人ずつ自分の選んだ名言と、その理由を口頭で発表していました。丸山先生が一言コメントを言いながら進んでいきます。丸山先生のコメントは、生徒が選んだ名言に感心している

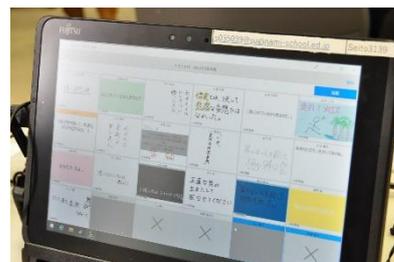


様子が伝わるものでした。実際、生徒は自分が選んだ背景を説得力のある説明をしていて素晴らしい。その様子

は、堂々と大きな声で発表する人もいれば、ボソボソ声で発表に少々緊張している生徒もいました。欲を言えば、発表の生徒が自分の意見を伝えよう、(聞いてくれ!)という迫力があると更に素晴らしい。最後に他の生徒の名言を聞いた感想を、ロイロノートに打って提出してちょうど時間になりました。

ロイロノートは、各教科の意見交換の場面や道徳の授業への親和性が高いように見えます。従来の授業では、①口頭で発表する、②黒板に書く、③紙やボードに書いて黒板に掲示する、といったア

ナログ的な手法でした。ロイロノートは、幼少期からPC、スマホ、ネットが当たり前存在する現代っ子の感性にあった教育ツールです。生徒の様子は、紙、ペンに向き合うより、意欲的に取り組んでいる様子が分かります。また、コロナ禍の中では席を向かい合わせて対面授業が禁止されています。こんな環境下での、生徒の意見の表現と共有に有効なツールであることが分かりました。いわゆる『主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)』の実現の可能性を見ることができました。一方で電子



ツールには弱点もあります。機器やネットのトラブルが起こること。動かなくなってしまうと、授業が簡単に止まってしまう。いずれにしても、小学校ではロイロノートを活用した授業が進んでいます。その児童が中学校に上がってきた時は、授業で活用の下地はできているのです。

2月10日(水)⑤ 国語 1B 百瀬教諭

『一年間の学びを振り返ろう』という授業の目標を板書します。冒頭、デジタル教科書の準備に時間がかかりましたが、何とか立ち上がりました。このトラブルが怖い。本時は『話す、聞く』の授業です。今年度は国語に限らず、コロナ禍の影響で、発表やグループワークがなかなかできない状況でした。ほぼ初めての『話す、聞く』活動でした。班ごとに取り上げる教材を決めてあり、ポスターセッション風に発表します。発表順は立候補で決まっています。意欲的な班が多いので期待が高まります。最初に全班が『予告』をおこないます。

『予告』とは、何を発表するかお楽しみにという30秒ほどのコマーシャルです。終わると拍手が出ます。学級全体が良い雰囲気です。見ていてワクワクしてきます。『ももTポイント』を三点確認してからセッションの開始です。このポイントとは、①伝わらないと意味がない。②聴く人の役割を確認。③発表後の質疑応答も大切に。日頃の指導が浸透していることが、『ももTポイント』に表れていました。ここまでの活動で20分経過です。いよいよ発表。それぞれの班の発表は、クラスで

アンケートをとって、その結果も参考にしながら自分たちの考えを発表していきます。『竹取物語、蓬萊の玉の枝』を取り上げた班は、あらすじを説明した後、五人の求婚者の失敗の中で、どの人が好きかアンケートをとって紹介していました。終わ



った後、質疑応答で、発表の良かった点や感想、質問が出ていました。『少年の日の思い出』

のポスターセッションもありました。有名なヘッセの自伝的小説です。発表を聞いていて、忘れていた『少年〜』の内容を思い出しました。昔、私が中学生の頃、教科書で学習して深い印象が残った教材でした。作者のヘッセに興味を覚えて、本屋に行って『車輪の下』を文庫本で買ってきて、むさぼり読みました。高橋健二という翻訳者の訳に感心したのを覚えています。主人公（ハンスという名前だったか？）のラストに衝撃を受けた忘れられない作品でした。「ハンスは自分だ」と思った昔の少年少女は多いでしょう。授業に戻って…、全部で四班の発表がありました。生徒は発表中、発表のメモを取りながらよく聞いていて、質疑応答に活発に手を挙げていて、百瀬先生が、生徒の積極性を引き出していた授業でした。

**2月17日(水)② 保体 2年男子 渡辺教諭**

天気の良い校庭です。前半は青空の下での保健の授業で、『有害物質』について復習です。口頭でタバコのニコチン、タールについて確認しています。主流煙と副流煙に含まれる量を確認しました。続いてアルコールについて。渡辺先生が生徒に質問して、答えさせながら復習しています。最後に薬物。ここから朝礼台に置いてあった教科書を各自使います。渡辺先生は「問題を考えて、何でもテストに出そうなことを、私に質問しなさい」と言い、生徒が先生に問題を出して挑戦しています。面白い光景です。次々に出る問題に渡辺先生が答えていきます。「お、それは本番で出題します」とか「そんなに細かい所を出題して、皆大丈夫ですか？」などと冗談を言いながら、和気あいあいと進みます。「薬物濫用の意味は？」「本来の薬物の

使用ではなく、不正に使用する状態」「生活習慣病になる原因は？」「睡眠、ストレス、タバコ、飲酒等々」スラ



スラと完答で生徒が拍手しています。「慢性閉塞性肺疾患とは？」「それ出しているのか？」「NO！」「もっと重要なところがないのか？」「飲酒、タバコ、薬物には〇〇性がある？」生徒が問題を考えて、先生が答える。問題を考えることで、知識が定着していく様子が分かります。「ラスト、〇〇君いってみようか」に対して、「大麻を吸ってもいい国はどこですか？」という意表を突いた質問でした。「売買が禁止等いろいろありますが。一番分かりやすいところでオランダです。将来行くつもり？（じゃないよね!）」で終わりました。欧米の大麻を合法化している国は、大麻が蔓延しすぎて取り締まりを断念したとも聞いています。あらためて大麻のような薬物の、国内での摘発や逮捕が続いている深刻な現実を思い出しました。健康を守る保健の授業は大切です。

教科書を片付けて、ここから体を動かします。創作ダンスです。3月15日に『学習発表会』が正式に決まったということを伝えます。生徒の反応は、(楽しくやるっきゃないね)という表情です。グループに分かれて振りの練習を始めます。三



つのチーム(8人ずつ)があります。それぞれ音楽が違います。ラップ調の曲のようです。間奏をどうするか相談が始まりました。歩いてきてチューチュートレインにしようとか相談です。それぞれのチームにリーダーらしき生徒がいて、ダンスの振りや位置や動きを指示しています。ダンスが好きな生徒、苦手な生徒がいるのですが、全員で積極的に取り組んでいました。見とれていて、気付くとチャイムが鳴って終了しました。

2

22 (月)

### 卒業生を励ます会 (C組)

例年、スキー教室(今年度は中止)でおこなっている励ます会を、区内の特別支援学級6校をリモートでつないで実施しました。区内の31名の3年生が、三年間の思い出や進路について発表していました。多くの生徒が、周囲への感謝の気持ちを述べていました。大宮中の生徒も立派にスピーチしていました。新型コロナの影響で、学校をつなぐネットワークツールが導入されて、こうした様々な活用をおこなっています。



2

15 (月)

### 生徒朝会

全校生徒が集まる集会に制限がある中で、月曜日の全校朝礼や生徒朝会は、生徒は体育館に集まる形はとれません。そこで、生徒が教室にいながら、リモートで校長の講話や各種委員会の委員長や生徒会長の話を視聴することができるようになっています。背景のインタビューボードは、生徒会役員が作成してくれました。校章・なでたろう・なみすけが映っています。



2月

保健体育

### 柔道(女子)

冬季は、保健体育で柔道を行います。組み手や寝技の練習は控えています。全員でマスクを着用して、受け身の練習をしていました。なかなか様になっています。



2

12 (金)

### 避難訓練



朝学活時に、開始時刻の予告無しで実施しました。数日前に、東京でも大きな地震があり、地震発生の放送に素早く反応して、机の下に真剣な態度で身を隠しました。

#### 部活動 新人戦の活躍

現在、活動停止中の部活動ですが、今年度の秋の新人戦でも頑張りました。

**卓球部**：男子個人戦都大会出場 野村直宏、三島功大(共に1年生)

**男子バスケットボール部**：区大会第三位  
★2/26(金)より、制限付きですが部活動を再開しました。新型コロナ対策をしながら慎重に活動します。